

県内5ダム枯渇恐れ

昨夏からの少雨影響 知事「節水を」

昨夏から続く少雨により、県内五つのダムの貯留水が4月中に枯渇する見通しであることが7日、分かった。下流では早期水稻の田植えが遅れるなど県内全域で影響が出ており、河野知事は「農業用水や工業用水の大口利用者に節水をお願いしたい」と呼び掛けている。(22面に関連記事)

同日開いた定例会見で知事が明らかにした。説明によると、小丸川水系の渡川ダム(美郷町)は既に枯渇。松尾ダム

(木城町)も16日に放水できなくなる見込みで、一ツ瀬川水系の立花ダム(西都市)が20日、広渡川水系の広渡ダム(同市)は14日に常設の設備



から放流できなくなる水位に達する見通しとなっている。

九州電力が管理する一ツ瀬川水系の一ツ瀬ダム(西都市)でも発電できる水位を既に切った。非常用放流

設備からの放流で下流の水量を確保しているものの、5月末に設備を使えない水位に達すると想定される。

県によると、県管理13ダムの降水量は1月が昨年比でわずか4%、2月は42%、3月は16%。このため日向市、門川町周辺の300畝で田植えが遅れているほか、葉タバコやスイートコーンなど露地野菜の生育や植え付けにも支障が出ている。今後まとまった雨が降らなければ、上水道にも影響が出るという。

宮崎地方気象台によると、8日は多い所で24時間雨量が40mmに達するなど、県内全域でまとまった雨が降る見通し。ただし、今後1カ月間は、低気圧が通過しにくい現在の気圧配置が続けば少雨傾向となる可能性は高いという。